

町 長	副町長	課 長	主 幹	担 当	合 議
					町立病院 総務課長 保健福祉課長

別記様式第4号

会 議 等 結 果 報 告 書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	
		決裁期日	令和2年10月19日
名 称	まちづくりトーク テーマ「町立病院改築基本構想」		
日 時	令和2年10月15日(木) 午後6時30分～午後7時42分		
場 所	保健福祉総合センターかみん 多目的ホール		
出席者	出席者：27名 町：説明者) 向山町長、石田副町長、北川町立病院事務長、長岡町立病院施設整備室長、宮下総務課長、鈴木保健福祉課長		
内 容	<p>18時30分開始</p> <p>1 開会 石田副町長の司会により進行</p> <p>2 町長挨拶</p> <p>向山町長：町の行政推進に対してご理解、ご協力いただきお礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症対策等では皆さまにご不便をかけている。町としても、諸政策を講じているが、終息しないことには以前の生活に戻れない。町民の気持ちを一つにして乗り越えたく、引き続きご協力いただきたい。</p> <p>まちづくりトーク「町立病院改築基本構想」について、町の将来を見据え、皆さまに安心・安全な暮らしをしていただくため、概要を取りまとめた。内容の説明を申し上げ、さらに進めていくため、皆さまのご意見を伺いたい。</p> <p>3 「町立病院改築基本構想」の概要説明を長岡町立病院施設整備室長から資料に沿って説明。</p> <p>4 質疑・意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町立病院が統廃合の対象とされているが、厚生労働省の認可がされるのか。病院の残債や防衛省の交付金の返還、備品機材が入った場合の建設費、財源の確保について伺いたい。病院改築の説明会がまちづくりトークだけで終わり、町民に認知されたものとして事業が進められていくのか。なぜ町長選の直前にこのまちづくりトークを行うのか。選挙で議論され、新しい町長の元で行われるべきではないか。</li> </ul>		

北川町立病院事務長：医療機関の再編について、国においては地域医療調整会議で地域のことは決めるとのスタンス。富良野地域医療調整会議で改築計画案を提出し、意見が無かったことから、地域として了承されたものと理解している。現町立病院の返済金は医師住宅の建設費、医療機械の購入費の一部が残っている。また、昭和 54 年に建てた町立病院は、防衛省の交付金を持って建設している。耐用年数が 60 年と定められ、残りの耐用年数期間の交付金を返還しなければならないが、今後、防衛省と返還額の圧縮について協議していく。概算事業費は建設費、町立病院や子どもセンターの解体費、設計費など先進地事例や同程度の病院建設の単価を基に計算している。今後の基本計画・基本設計と進むなかで事業費は変わっていく。新病院建設の財源は、営利企業としての位置付けから補助金がほとんどない状況。今のところ地方債で賄われる。有利な財源を研究するとともに、事業費を圧縮していけるようにしていきたい。

石田副町長：今回のまちづくりトークのほか、基本計画のパブリックコメントを実施し、町民の皆さまの意見を集約したい。消防法施行令の改正により、スプリンクラーの設置が義務付けられることから、間に合うためのスケジュールで進めている。町長選挙とは絡めていない。備品等については、現在の備品を活用し、医療機器の更新については、毎年計画的に行っていく。

・子どもセンターを取り壊した後の機能はどうなるのか。

鈴木保健福祉課長：子どもセンターの機能については、障害を持った児童のための事業所と就学前の児童と養育者のための機能が分かれた施設として検討している。予定場所は検討の段階。皆さまから子育てに関しての意見をいただきたい。

・子どもセンターの代替え施設を建てるのか。

石田副町長：新子どもセンターの建設の計画はない。

・今の機能を別に持っていくのか。

石田副町長：発達支援と子育て支援の機能を分散し、他の公共施設の使用を検討している。

・具体的にどこの施設を使用するのか。

石田副町長：発達支援の機能については、旧看護宿舎を候補地として検討。子育て支援については、保健福祉総合センター、公民館、児童館など、どこが使いやすいのか、育児サークルの方々と意見交換するよう保健福祉課に指示している。

・今後サービスが劣ることはないか。

石田副町長：ないように努めていく。

・介護医療院が 28 床から 40 床になる。この計画で足りるのか。新病院の目指す方向性について、今まで通りだと思うが、これが新しい方向性なのか。施設配置が非効率だから改修、建替えが必要との印象を受けた。新しく 37 億円をか

けて改築するのに、不具合が起きたから改築するは無いようにしてほしい。30年後、非効率だから建替えますということは納得がいかない。

北川町立病院事務長：介護医療院については、今年7月1日から28床として展開し、要介護度が重い方が入所している。町内の受け入れ施設としては、ラベンダーハイツと町立病院の2カ所。常時待機者が約10人おり、他の町の施設に入所している方が約30人いる状況。町と圏域で協議した結果、40床が妥当な数字として設定した。新病院が目指す方向性については、町民の安心・安全を守るため現病院の機能と役割の維持・継承していくことで掲げている。改築については、専門的なコンサルのほか、現場の医療スタッフの意見を取り入れながら、非効率だから建て替えることがない計画にしていく。

- ・改築基本構想に賛成の立場で意見をしたい。耐用年数の経過、耐震基準、スプリングラーの設置は必要条件と考えられることから政令に定めた通りに行うのが望ましい。高齢化が進んでおり、高齢者の交通事故の問題を考えると富良野市、旭川市まで移動することが難しいと考える。安心・安全な交通網を考えていただき、地元に着した町立病院を建設してほしい。

石田副町長：ご意見いただき感謝する。わが町のかかりつけ医としての役割を果たしていかなければならない。地域に着した医療機関として整備を進める。

- ・新病院の構想にドクターヘリのヘリポートの計画がないが、今後基本設計、実施設計で示されるのか。

石田副町長：現在具体策を検討していないが、今後基本計画で検討する。現在の役場車庫前が良いのか、例えば新病院の屋上にヘリポートの機能を持たせることができるかなど検討する。

(意見交換・質疑終了)

## 5 閉会

向山町長：皆さまの安心・安全をしっかり守っていける新町立病院の構想を進めていく。全ての安心・安全の拠点施設となるよう、皆さまの意見を聞きながら進めていきたい。

19時42分終了